

II 油糧種子

1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

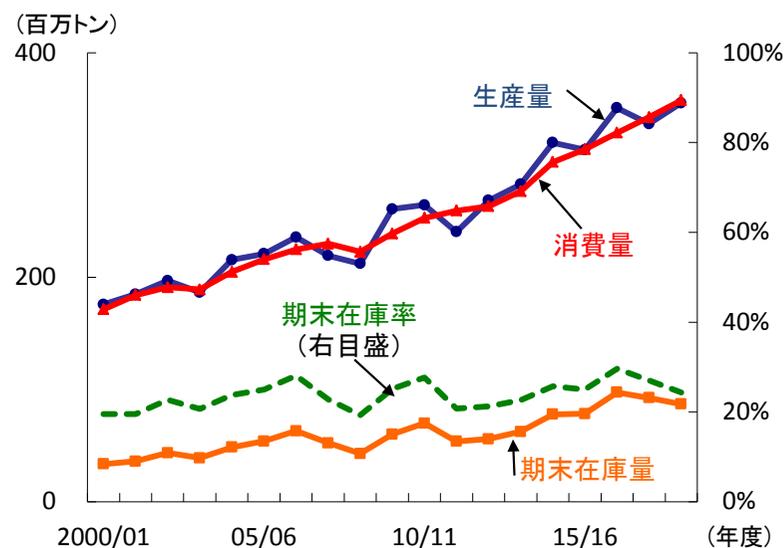
・前月に比べ、ブラジルでの単収上昇により上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、ブラジルで生産増による輸出余力の上昇により上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2018.6.12）をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	350.8	336.7	355.2	0.7	5.5
消 費 量	328.6	342.4	357.7	▲ 0.02	4.5
うち搾油用	287.3	299.7	313.3	0.1	4.6
輸 出 量	147.5	152.1	161.8	0.6	6.4
期末在庫量	97.4	92.5	86.7	0.3	▲ 6.3
期末在庫率	0.3	0.3	0.2	0.0	▲ 2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（June 2018）



注：シカゴ商品取引所による2018年6月22日までの毎週金曜日の期近価格である。

(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、6月24日時点における発芽状況は95%で、前年度および過去5年平均より早い。

【需給状況】消費量は、搾油需要とともに、対前年度比で低下する見込みであるが、前月からは上方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによると、2018/19年度の輸出量は、前年度と比べ10.9%増加の62.3百万トンの見込みで、前月から変わらず。

なお、主要輸出先国である中国が、7月から米国産大豆に25%の関税を課すと発表したため、これが輸出動向に影響を与えるとみられる。

大豆－米国

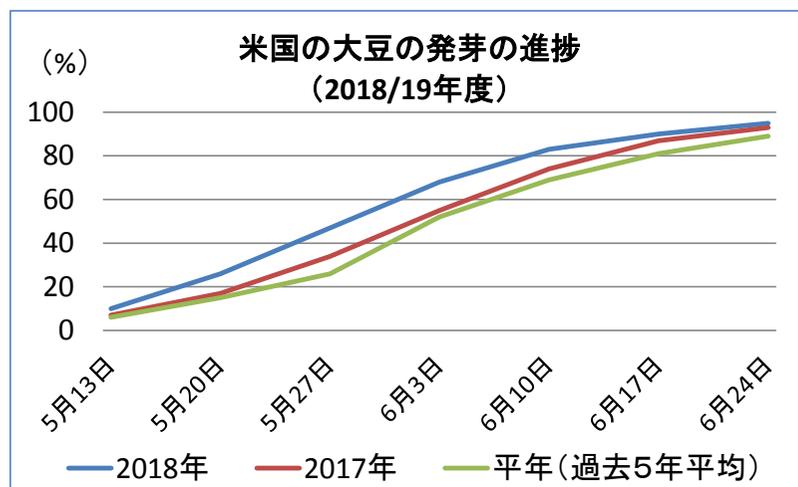
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	119.5	116.5	-	▲ 2.5
消費量	55.5	58.5	58.1	0.1	▲ 0.6
うち搾油用	51.7	54.8	54.4	0.1	▲ 0.7
輸 出 量	59.2	56.2	62.3	-	▲ 10.9
輸 入 量	0.6	0.7	0.7	-	-
期末在庫量	8.2	13.8	10.5	▲ 0.8	▲ 23.8
期末在庫率	7.2%	12.0%	8.7%	-0.7%	▲ 3.3

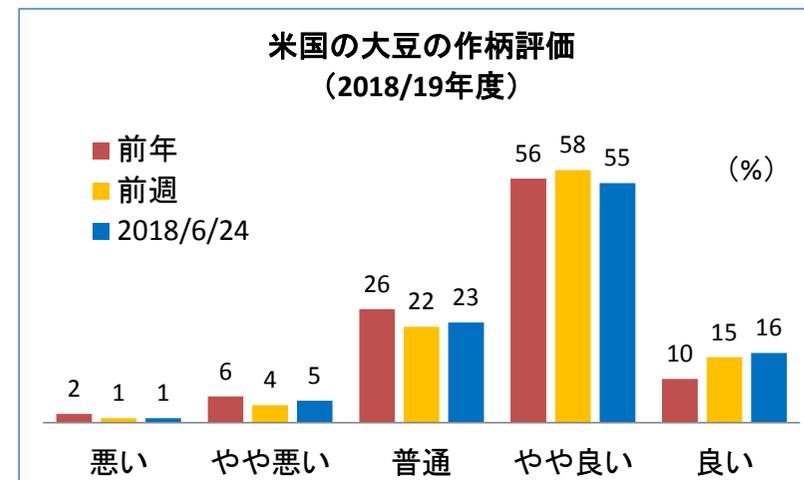
(参考)

収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.69	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	3.49	3.30	3.26	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)



資料：USDA「Crop progress」(2018.06.25)



資料：USDA「Crop progress」(2018.06.25)

< ブラジル >

【生育・生産状況】2017/18年度の収穫は順調に終了した。米国農務省（USDA）によると、今秋以降に植え付けする2018/19年度の生産量は、対前年度比で0.8%減少の118百万トンと予測されている。

【需要状況】USDAによると、2018/19年度の搾油需要は、前年並の見通しで、前月からの変更はない。

【貿易情報・その他】5月下旬に発生したトラック運転手のストライキは、5月末には妥結に至った模様である。オイルワールドによると、積出し港では、多数の船舶が入港待ちの状況である。トラック輸送費の上昇は、今後の輸送費用の上昇要因になりかねない。

また、ブラジルの最大の輸出先は中国であり、本年1月以降、輸出量を伸ばしており、5月までの累計で約2,800万トンを輸出している。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	114.6	119.0	118.0 (117.0)	-	▲ 0.8
消費量	43.8	46.5	46.8 (…)	-	0.5
うち搾油用	40.4	43.0	43.2 (46.2)	-	0.5
輸 出 量	63.1	74.7	73.0 (75.2)	-	▲ 2.3
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (…)	-	-
期末在庫量	26.5	24.5	23.0 (27.3)	-	▲ 6.1
期末在庫率	24.7%	20.2%	19.2%	-	▲ 1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.90	33.90	36.50 (36.10)	-	7.7
単収(t/ha)	3.38	3.39	3.23 (3.24)	-	▲ 4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(June 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(June 2018)

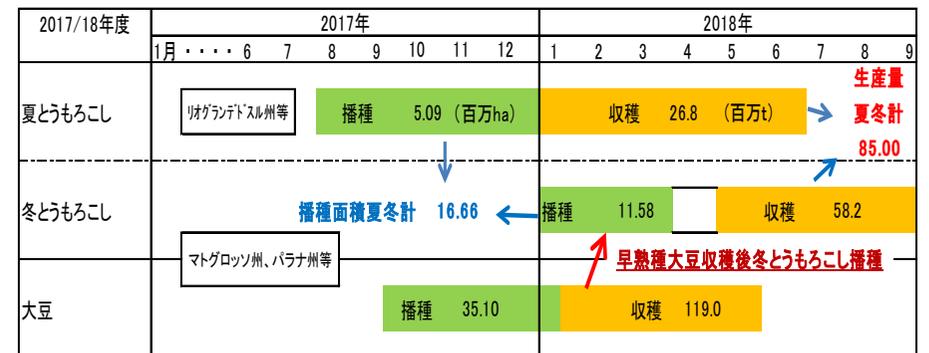
ブラジル大豆の主な輸出先

単位:千トン

1月	中国	オランダ	ロシア	イラン	スペイン
	1,342	65	60	59	27
2月	中国	スペイン	オランダ	英国	ロシア
	2,144	305	102	100	61
3月	中国	スペイン	イラン	トルコ	オランダ
	6,938	274	195	173	164
4月	中国	パキスタン	ポルトガル	スペイン	オランダ
	7,526	306	245	237	224
5月	中国	スペイン	イラン	トルコ	タイ
	9,763	407	309	274	207

資料：ブラジル商工サービス省

ブラジルのクロープカレンダー（2017/18年度）（中部から南部）



資料: CONAB 2018年6月

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、小麦と比べて収益性が低いこと、西部で乾燥が広がっていること、国際価格が下落傾向であること等により、作付面積は11%減少の2.60百万ヘクタールの見込み。カナダ統計局6月発表によると、さらに減少し2.55百万ヘクタールである。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、消費量は、前年度並みの見通し。

【貿易情報・その他】AAFCによると、輸出先が多様化していることから、増加傾向にあり、輸出量は5.3百万トンの見込みである。

参考 カナダのなたね

なたねの作付面積は、カナダ統計局6月公表によると前年度比1.1%減少の9.3百万ヘクタールになる見込み。生産量は、AAFCによると単収と作付面積の減少により、前年度比10%減少、前月比12%減少の19.2百万トンの見込み。輸出量は、前年度と同水準、前月比で3%減少の11.0百万トンの見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】今年2月の干ばつの影響で、2017/18年度の収穫量が大幅に減少する見込み。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、2017/18年度は、前年度と比較して、生産量が減少し消費量を下回る見込みであり、輸入が必要な状況である。輸入先は、主としてパラグアイである。

【貿易情報・その他】アルゼンチンは、大豆を搾油し、副産物の大豆かすを輸出しているが、2017年末より通貨ペソが下落しており、搾油業界は、割高の輸入大豆で搾油せざるを得ず、コスト高になっている。そのため、2017/18年度の大豆かすの生産量と輸出量は、ともに前年度より減少の見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	8.0	7.8 (7.1)	-	▲ 2.5
消費量	2.5	2.6	2.6 (2.4)	-	-
うち搾油用	2.0	2.0	2.0 (…)	-	-
輸 出 量	4.6	5.5	5.8 (5.3)	-	5.5
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	-
期末在庫量	0.3	0.6	0.5 (0.9)	-	▲ 22.9
期末在庫率	3.9%	7.8%	5.8% (11.7%)	-	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.90	2.74 (2.60)	-	▲ 5.5
単収(t/ha)	2.96	2.76	2.85 (2.77)	-	3.3

資料: USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、「PS&D」(June 2018)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(May 2018)

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.8	37.0	56.0 (54.6)	-	51.4
消費量	47.8	44.9	48.9 (…)	-	8.9
うち搾油用	43.3	40.3	44.0 (23.9)	-	9.2
輸 出 量	7.0	3.5	8.0 (5.5)	-	128.6
輸 入 量	1.7	3.4	1.9 (…)	-	▲ 44.8
期末在庫量	36.2	28.2	29.1 (30.7)	▲ 0.6	3.2
期末在庫率	66.0%	58.1%	51.0% (…)	▲ 0.01	▲ 7.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.35	16.80	18.70 (17.80)	-	11.3
単収(t/ha)	3.15	2.20	3.00 (2.98)	0.01	36.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(June 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(June 2018)

< 中国 >

【生産・生育状況】主産地の東北地方では、降雨不足であったが、5月末に雨が降り、土壌水分が好転した。

USDAによると、生産量は前年度比で0.7%低下の14.1百万トンの見込みである。一方、国内生産を奨励している中国農業農村部によると、稲、とうもろこしの作付面積を削減し、大豆作付面積を増やす見通し。国家糧油情報センターによると、前年度より8.8%増加の8.47百万ヘクタール、生産量は、前年度より8.6%増加の15.8百万トンの見込みであり、USDAとは対照的である。

【需要状況】大豆圧搾量は、5月初旬から低水準にとどまり、年内最多の180万トン/週から、158万トン/週へと低下している。加えて、豚肉価格低下の影響で、飼育頭数が減少し、大豆油かす利用が減少しており、大豆の国内在庫は、増加しているとみられる。

【貿易情報・その他】政府は、米国産大豆の輸入に対して25%の関税を課すこととしており、輸入先が、米国から南米等の生産国にシフトする可能性が高い。

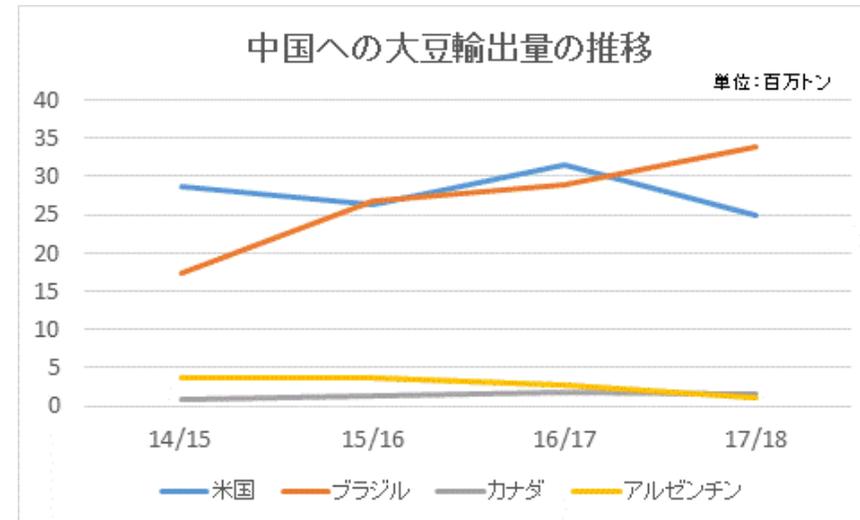
中国税関によると、1~4月の大豆輸入量は、前年度比3.8%減少の26百万トンであり、輸入価格も下落している。国家糧油情報センターによると、年間輸入量は前年より100万トン減少し、95百万トンの見込み。輸入量の減少は、15年ぶりである。一方、USDAによると、2018/19年度の輸入量は、前年度比6.2%増の103.0百万トンの見込みであり、中国政府と見方が異なることから、今後の動向を引き続き注視していく必要がある。

大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	12.9	14.2	14.1 (14.5)	-	▲ 0.7
消費量	102.8	110.8	118.4 (...)	-	6.9
うち搾油用	88.0	95.0	102.0 (114.5)	-	7.4
輸 出 量	0.1	0.2	0.2 (...)	-	-
輸 入 量	93.5	97.0	103.0 (102.2)	-	6.2
期末在庫量	20.4	20.6	19.2 (...)	-	▲ 7.0
期末在庫率	19.8%	18.6%	16.2% (...)	-	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.85	7.85 (7.26)	-	-
単収(t/ha)	1.79	1.81	1.80 (2.00)	-	▲ 0.6

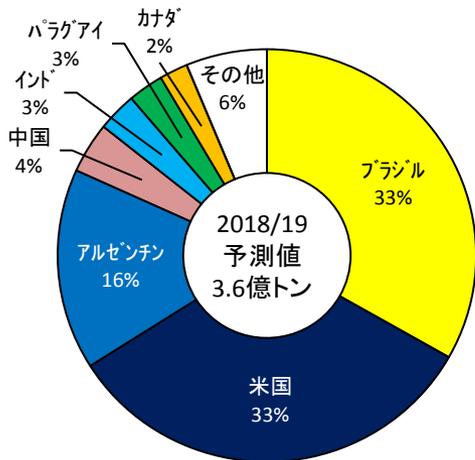
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(June 2018)



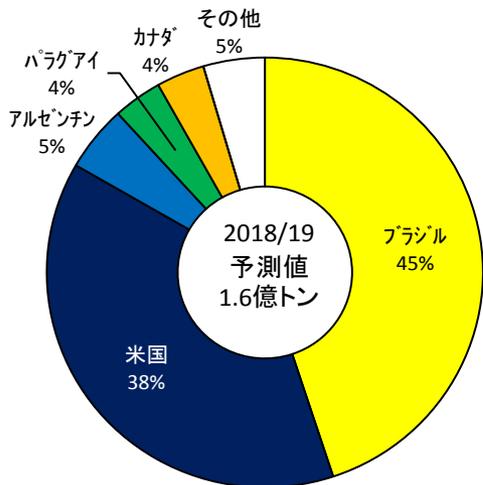
資料：IGC「Grain Market Report」GMR489

資料 世界の大豆生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年6月現在)

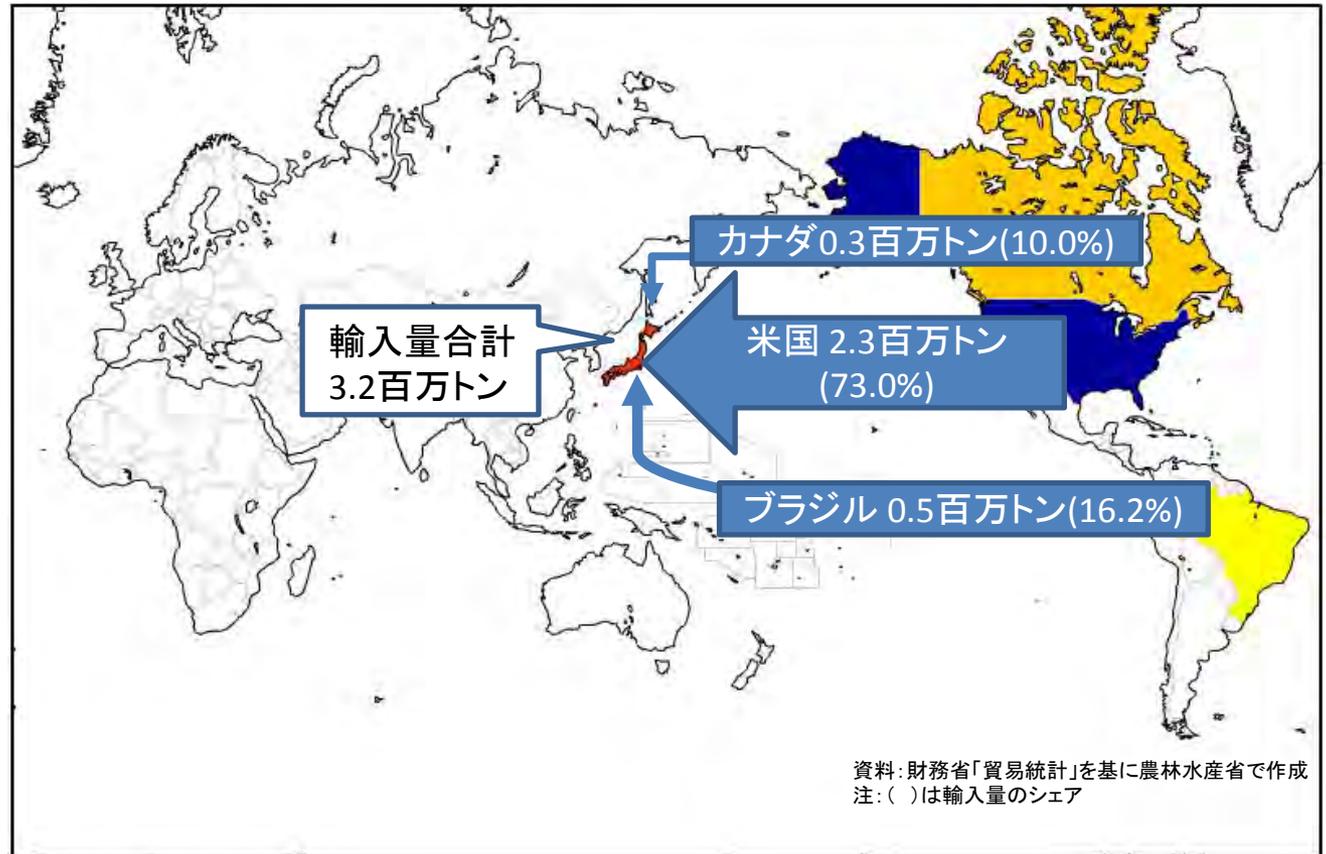
世界の大豆生産量



世界の大豆輸出量



日本の国別大豆輸入量(2017年)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成
注:()は輸入量のシェア

<参考>世界の大豆輸入国(2018/19)

—世界の6割以上を中国が輸入—



日本の大豆生産量
 2015年:0.24百万トン
 2016年:0.24百万トン
 2017年:0.25百万トン
 (資料:農林水産統計)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2018年6月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--